

小學修身課書

南摩綱紀編

三

K/10/1
113
3

南摩綱紀編

小學脩身課書

明治十五年四月
廿五日版權免許

中外堂藏版

小學脩身課書卷三

初等三年後期

南摩綱紀編

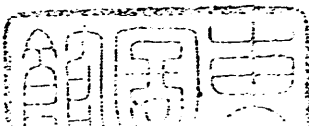
◎日用の間織毫の事と雖も、皆當

に謹慎よまべし。薛文清公

○一言の過ちも、莫大の禍となり。

一事の失も、終身の憂とある。慎む

べし。大和俗訓



○子弟たる者ハ。居處を灑掃。几案を拂拭。書籍筆硯。凡百器用。皆整齊よまべし。童蒙須知

○几案ハ必ま整齊よし。簡帙ハ亂まべからむ。書篋衣笥ハ必ま扇鑰を慎み。堂室ハ必ま潔淨よまべし。

程董學則

○黎明即ち起き。庭除を灑掃。内外を整潔よまざるを要ま。治家格言

○人の書籍を借らば。帳簿よ記す。時よ及びて還まべし。童蒙須知

○書を讀む時ハ。几案を端正よし。書籍を整齊よし。身體を正くし。詳緩よ字を看て。子細分明よまべし。

同

○書を讀むよ。心を專よして字を看。句を斷ち。慢く讀む。字字分明なるを要す。目東西を視。手他物を弄ふ勿れ。教子齋規

○書を讀むよ。字字響亮なるべし。一字を誤るべからず。一字を少く

まべからず。一字を多くまべからず。一字を倒よまべからず。童蒙須知

○書を讀むよ。強て暗記まべからず。只た數遍誦讀まべし。自然よ口に上り。久遠忘れず。同

○書を讀むよ。三到あり。心到り。眼到り。口到るをいふ。三到の中心到

最も急なり。心既よ到れば。眼口も亦到る。同

○書を觀る一卷なれば。一卷の益あり。一日なれば。一日の益あり。倪文節

○書を讀むに必ず專一よし。字を寫すは必ず敬むべし。程董學則

○程明道曰く。吾れ字を寫す時甚

だ敬む。字の好からんことを欲するよあらば。便ちこれ學なり。

○字を寫すよは。未だ工拙を問はむ。且つ一筆一畫。嚴正分明なるを要す。童蒙須知

○書を學ぶよは。志を聚めて筆を把り。字ハ齊整圓淨なるを要す。輕

易糊塗なる勿れ。教子齋規

○父命トて呼べば。唯して諾せず。手よ業を執れば。これを投げ。食口よあれば。これを吐き。走りて趨らき。禮記

○親老れば。出づるよ方を易へ。復るよ時を過ごさず。親濟めば。色

容盛ならむ。同

○孝子の老を養ふは。其心を樂ましめ。其志よ違ひぬ。其耳目を樂ましめ。其寢處を安んず。其飲食を以て。これを忠養す。曾子

○父母の愛する所は亦これを愛す。父母の敬する所は亦これを敬す。

也。犬馬に至るまで盡く然り。況んや人よ於てを也。同

○病みて牀よ卧まふれを庸醫よ委ぬるい。不慈不孝よ比を親よ事ふるもの。亦醫を知らさるべからむ。近思錄

○孝行の條目は數多あれども二

條よ約まれり。第一ふい。父母の心を安穩よまゐるあり。第二よい。父母の身を敬ひ養ふなり。翁問答

○弟子入れば則ち孝。出づれば則ち弟。謹みて信。汎く衆を愛して。仁よ親しむ。行ふて餘力あれば。以て文を學ぶ。論語

○凡そ今の人。兄弟よ如くいなり。
詩經

○豈よ他人をうらんや。我が同父
よ如うむ。同

○兄弟墻よ鬪めげども。外その侮
を禦ぐ。同

○兄よ宜しく。弟よ宜きい。令徳壽

豈なり。同

○死喪の威れ。兄弟孔だ懐ふ。原隰
よ哀まる。兄弟を求む。同

○兄弟い小忿ありと雖も。懿親を
廢てむ。左傳

○朋友よい切切悃悃。兄弟よい怡
怡たり。論語

○仁人の弟よ於る也。怒を藏さむ。

怨を宿めむ。これを親愛するのこ。

これを親しめむ。その貴からんこ

とを欲し。これを愛せむ。その富

まんことを欲む。孟子

○人の兄としてい。慈愛ふして友

を見る。人の弟としてい。敬誡よ

て恃らむ。荀子

○朋友講習む。易經

○二人心を同くせむ。その利金

を斷つ。同心の言。その臭蘭の如し。

同

○君子は上よ交りて諂はむ。下よ

交りて瀆らむ。同

○晏平仲善與人と交る。久くしてこれを敬む。論語

○子貢友を問ふ。孔子曰く。忠よ告げて。善くこれを道びく。不可ふれば則ち止む。自ら辱めらるることなし。同

○益者三友。損者三友あり。直を友

とし。諒を友とし。多聞を友とせむるは益なり。便辟を友とし。善柔を友とし。便佞を友とせむるは損なり。同

○長を挾まむ。貴を挾まむ。兄弟を挾まむして友たり。友はその徳を友とせむるなり。以て挾むことあるべからむ。孟子

○勢を以て交る者い。勢傾けば則ち絶つ。利を以て交る者い。利窮まれば則ち散む。故よ君子い與せむ。王通

○君子い先よ擇びて。後よ交はる。小人い先よ交りて。後よ擇ぶ。故よ君子い尤め寡し。同

○善人は不善人の師ふして。不善人は善人の資なり。老子

○賢を見てい。齊しからんことを思ひ。不賢を見てい。内よ自ら省りころ。論語

○衆これを惡むも必だ察し。衆これを好みまざるも必だ察む。同

○善人と同トく處れバ。日又善訓
 を聞き。惡人不從ひ遊べバ。日小邪
 情を生む。蓬麻中不生むれバ。扶け
 ぎして自ら直し。白沙緇中又入れ
 ば。染めむして自ら黒し。論衡

○人を待つは豊なるを要す。自ら
 奉むるは約なるを要す。續小兒語

○己れを責るは厚きを要し。人を
 責るは薄きを要す。同

○人を虧くはこれ禍。己れを虧く
 はこれ福。人を怪むは深くまると
 とあられ。人不望むは過ぐること
 あり。同

○人譽れば我れ謙す。又一の美を

増をたまり。自ら誇れば自ら敗る。又

一の毀を増をたまり。同

○家の主たるものい。身を修め。家を興を以て志とし。父祖の遺財を失いざるを以て孝とをべし。天災より。財産を失ふも。人力の及ぶ所よあらば。己れ不徳よりして。こ

れを減耗するは。大なる不孝と謂ふべし。家道訓

○子路人これよ告る小過ちあるを以てまれば則ち喜ぶ。孟子

○子路過ちあり。七日食をむ。孔子これを聞て曰く。由や過ちを改むることを知る。劉氏入譜

○過ちを知るの難きふあらむ。過ちを改むるを難くとむ。同

○幼ふして敢て長し事へむ。賤ふして敢て貴し事へむ。不肖ふして敢て賢し事へむ。はこれ人の三不祥なり。荀子

○我れ人小勝るを誇るまわれ。我

れよ勝れる者還た多し。紳瑜

○奢る者の富みても足らば。儉する者の貧しくしても餘りあり。奢る者の心常は貧しく。儉する者の心常に富む。譚子

○勢力を恃みて。孤寡を陵ぐこと勿れ。治家格言

○事は因りて相争ふ。安んぞ我の
不是をらざるを知らん。心を平し
して。再び思ふべし。同

○人の嘉慶あるを見て。妬忌の心
を生むべからむ。人の禍患あるを
見て。喜幸の心を生むべからむ。同

○人の微賤あるも。皆當に誠敬を

以てこれを待つべし。忽慢よまを
からば。薛文清公

○人の過ちを見ては。必む我が身
を省るべし。程漢舒

○人の不善を見れば。惡むことを
知らざるいなし。己れの不善あれ
ば。これより安んじて顧むべし。幼儀雜箴

○人の不善を聞かば。婢僕の過ち
 と雖も。包藏して聲言さべからざ
 告語して改めしむべし。童蒙須知

○天下何事か。怒より因りて錯らざ
 らん。怒る時は忙し。忙しければ錯
 る。陸桴亭

○怒れば横語多く。喜べば狂言多

し。一時褊急なれば。過ぐる後より羞
 慚あり。續小兒語

○言口より發まれば。臧となり。否と
 なる。人ふ加はれば。喜となり。嗔と
 なる。幼儀雜箴

○世ふ處るい多言を戒む。言多け
 れば必む失あり。治家格言

○愛敬ハ人道の本なり。親ヨ用ふ
 れば孝と曰ひ君ヨ用ふれば忠と
 曰ひ。子ヨ用ふれむ慈と曰ひ。衆ヨ
 用ふれば仁と曰ふ。順悌惠信皆愛
 敬ノ非むと謂ふことなり。翁問答

○軽く人の言を信むる時ハ安ん
 ぞ其譖訴ヨあらざるを知らん。當

ヨ忍耐三思をべし。朱熹

○常ヨ虚誕を説く者ハ時ありて
 信誠のことと言ふと雖も。人これ
 を信せむ。紳瑜

○敬を以て徳を畜ひ。静を以て志
 を養ふ。幼儀雜箴

○好話を説き。好心を存し。好事を

行ひ。好人ふ近づく。續小兒語

○暗室小人なると雖も。自身怎ち

自身を見る。同

○敬怠よ勝つ者い吉。怠敬よ勝つ

者い滅ぶ。大戴禮

○義欲よ勝つ者い從ひ。欲義よ勝

つ者い凶なり。同

○瓜田よ履を納れぬ。李下よ冠を

正さぬ。文選

○常を厭ひて新を喜び。正を嫉こ

て奇を好むい。古今の通病なり。童子

問

○若し業の成るを要せば。先つ窮

困を受ること。を學ぶべし。若し煩

悩なまきことを要せば唯だ足ることを知るべし。續小兒語

○白日爲ま所い。夜來已れを省る。惡なれい驚くべし。善なれい喜ぶ

べし。同

○獨り立ちて影ふ慚ぢむ。獨り寢て衾ふ慚ぢむ。劉子新論

○司馬溫公曰く。吾れ平生人よ過ぐる處あり。但だ平生爲ま所の事。人よ對して言ふべからざるもの無きのみ。

○妄よ人の言よ任せて語り傳ふべからむ。人の胡亂なることを信じて人よ語れい。我も亦虚言をい

ふの罪あり。大和俗訓

○學を爲まい。今い是ふして昨日
非なるを覺ゆべし。日よ改め月よ
化して。便ち長進を。朱熹

○人の小過を責めむ。人の陰私を
發かむ。人の舊惡を念ひま。三のも
のい。惟た徳を養ふのこあらむ。亦

害を遠ざくべし。遵生八牋

○分よ過ぎて福を求むれば。適く
以て禍を招ぎ。分よ安んじ禍を遠
ざくれれば。將よ自ら福を得んとむ。

紳瑜

○言語を慎みて其徳を養ひ。飲食
を節よして其體を養ふ。事の至近

ふして。繋る所至大なるものい。言語飲食ふ過ぐるいなし。程子

○人よ周いたことを樂む者い。自ら奉むること必む薄し。身よ奢る者い。恵みその親よ及ばむ。畜徳録

○智あれば則ち問ふことを好むて樂み。智なければ則ち自ら用ひ

て憂ふ。同

○古人の是非を品評するい可なり。今人の善惡を妄議するい不可なり。恨むを取らひ。多く妄議よ在り。言志録

○自ら重んぜざる者い辱を取り。自ら畏れざる者い禍を招く。自ら

満たざる者い益を受け自ら足れ
りとせざる者い聞を博くせ。願體集

小學修身課書卷三終

明治十五年四月廿五日版權免許
明治十八年四月九日四刻御届
明治十八年四月 出版發賣

定價金

青森縣士族

編輯人

南 摩 綱 紀

麴町區富土町二丁目廿七番地

東京府平民

出版人

柳河梅次郎

日本橋區本町二丁目十番地



製本發賣所

佐賀縣下佐賀郡白山町三番地

書肆

吉田庄藏

